

御殿場市と小山町のすがた

西に霊峰富士を仰ぎ、東に箱根外輪山・北に丹沢山地に囲まれた美しい自然と緑豊かな高原に御殿場市と小山町がある。

この地に人類が住みついたのは、6～7千年前の縄文時代といわれ、遺跡からは土器や住居跡が多数発見されている。この地は度重なる富士山の噴火による、苦難な歴史の中で集落ができたとおもわれる。歴史に残る宝永4年の大噴火により、大量に降った砂は、富士山麓を3メートル～6メートルの深さで覆いつくすという大災害となった。この大災害は、時の関東郡代伊奈半左衛門の活躍により復旧がなされ、その功績は大きく後の世にも語りつがれている。

鎌倉時代には、源頼朝によって巻狩が富士の裾野一帯で行われた。この巻狩に因んだ多くの伝説や地名が管内各地に残っている。

戦国時代には、交通の重要地点であったので、めまぐるしい攻防が行われた。何度か領主が変わった後、寛永10年、小田原藩に組み込まれた。宝永4年の富士山噴火以降一時期幕府領となったが、噴火から40年後に小田原藩領に復帰した。明治維新後駿府に編入され、明治4年の廃藩置県が実施されると、駿府藩は静岡県となった。

昭和28年の町村合併促進法により、現在の御殿場市と小山町が生まれた。

昔、富士講と呼ばれた人達が富士山に登ったが、明治22年に東海道線開通で御殿場駅が設置されると、夏の登山期には、御殿場口、須走口は全国からの富士登山者で賑わった。今では御殿場口は新五合目まで車で直行し、須走口はマイカー規制によりバス・タクシー等の交通機関を利用しての登山が主になっている。

管内は富士・箱根・伊豆国立公園の国際観光地の中心地にあり、東名高速道路や国道246号線、国道138号線、国道469号線、東富士五湖道路といった幹線道路が通っている。こうした交通の要所であるため交通渋滞がしばしば発生している。

地形としては、御殿場市のほぼ中央が南北の分水嶺となり、霊峰富士の雪どけ水は、それぞれ相模湾と駿河湾に注いでいる。

管内には広大な大野原といわれている大草原を有しており、古くは源頼朝の富士の巻狩に、明治後期からは旧日本陸軍の演習場として使用されていた。昭和34年に東富士演習場使用協定が結ばれ、現在、演習場は自衛隊が使用し、陸上自衛隊富士学校や3つの駐屯地があり自衛隊の街として知られている。同時に周辺住民の生活環境改善事業が行われている。

産業経済では、小山町に明治29年に富士紡績が創設され、その後自然環境に恵まれた御殿場市や小山町に多数の工場が進出し、研修施設、保養所等が建設された。更に、駒門工業団地、神場工業団地、富士御殿場工業団地、板妻南工業団地、富士小山工業団地、ハイテクパーク富士小山、研修所施設を中心とした御殿場市と小山町にまたがる東富士リサーチパークの開発も進んでいる。レジャー産業の一つであるゴルフ場も多く御殿場市に11ヶ所、小山町には11ヶ所の合計22ヶ所がある。

日本が誇る富士山、その麓に位置する御殿場市では富士山が与えてくれる豊かな自然環境に調和し、さらにこれを育むまちづくりと、雄大な富士山にふさわしい、心が大きくて思いやりのある人づくりを進め、だれもが生きがいと誇りを持って暮らすことができる、人と環境が共生するまちを将来都市像「緑きらきら、人いきいき、御殿場」として表している。小山町では「富士のふもと 人々のふれあう心豊かなふるさと・おやま」をテーマに、先人が守り育ててきた富士山をはじめとする豊かな自然や歴史を町の誇りとし、人と人、人と自然などのふれあいをとおして、美しい自然を守り、快適な町民生活と特色ある文化を創造していくことを目標としている。

特産物では、富士山の雪どけ水を利用した水かけ菜は全国的に知られ、良質なわさびも栽培されている。

気候は、夏涼しく東海の軽井沢といわれ、快適な生活を過ごすことができる。また、雨量と霧（ガス）が多いことが原因で、湿度が高く、山に囲まれているため天候が変わりやすく、この地方だけに雨が降ることも多い。この現象は昔から「みくりやのわたくし雨」と呼ばれている。

消防本部・消防署の沿革

昭和40.	4.	1	政令指定により、御殿場市萩原483番地に御殿場市消防本部・消防署を設置。御殿場市助役が消防長に就任し、職員33人（職員定数36人）指令車1台、消防ポンプ自動車1台、水槽付消防ポンプ自動車1台で業務開始
	5.	1	消防職員2人採用
昭和41.	4.	1	消防職員1人採用、職員数36人（職員定数36人）
昭和42.	4.	1	消防職員1人採用、職員数36人（職員定数36人）
	10.	1	消防職員4人採用、職員数40人（職員定数40人）
	11.	1	救急自動車（救急1号車）1台を購入 救急業務開始 小山町と救急業務に関する協定を締結し、小山町の救急業務開始
昭和43.	1.	1	消防職員1人採用
	4.	1	社団法人日本損害保険協会から消防ポンプ自動車が寄贈される
	6.	1	消防職員1人採用
	7.	11	財団法人日本消防協会から救急自動車（救急2号車）1台が寄贈され消防署に配置
昭和44.	3.	20	東名高速道路（御殿場～沼津インターチェンジ間の下り線）の救急等消防業務開始
	4.	1	消防職員10人採用、職員数49人（職員定数50人）
	4.	10	消防職員1人採用、職員数50人（職員定数50人）
	4.	13	社団法人日本損害保険協会から消防ポンプ自動車が寄贈される
	5.	26	東名高速道路（御殿場～大井松田インターチェンジ間の上り線）の救急等消防業務開始
昭和45.	4.	1	消防職員3人採用、職員数49人
昭和46.	4.	1	小山町との厚生施設組合を改組し、新たに常備消防業務を含めて御殿場市・小山町広域行政組合を設立 消防職員3人採用、職員数50人（職員定数72人）
昭和47.	1.	1	消防職員5人採用
	2.	1	消防職員6人採用
	4.	1	消防職員10人採用、職員数71人（職員定数72人） 御殿場市役所新庁舎開庁、併せて御殿場市・小山町広域行政組合新消防庁舎開庁、消防本部・消防署の業務開始 駿東郡小山町菅沼359番地の2に御殿場市・小山町広域行政組合消防署小山分署を設置。職員18人、消防ポンプ自動車1台、水槽付消防ポンプ自動車1台、救急自動車1台、指令車1台で業務開始
	4.	5	指令車1台と作業車1台を購入
	4.	21	社団法人日本損害保険協会から救急自動車（救急1号車）1台が寄贈され本署に配置
昭和48.	4.	1	消防職員4人採用、職員数71人（職員定数72人）
	7.	1	消防職員1人採用
	12.	19	水槽付消防ポンプ自動車1台を購入、本署に配置
昭和49.	2.	19	救助工作車1台を購入、本署に配置
	4.	1	消防職員4人採用、職員数76人（職員定数76人）
	5.	30	本署救急自動車（救急1号車）1台更新
	6.	1	本署救急自動車（救急1号車・救急2号車）の名称入替変更
昭和49.	9.	28	本署消防ポンプ自動車更新

	10.	1	富士岡地区の消防業務充実のために分遣所設置決定 設置されるまでの期間、仮設待機所を建設、職員3人、水槽付消防ポンプ自動車を昼間のみ配置して業務開始
昭和50.	4.	1	消防職員6人採用、職員数82人（職員定数82人） 社団法人日本損害保険協会から救急自動車（救急1号車）1台が寄贈され本署救急自動車（救急1号車）を更新 更新前本署救急自動車を（救急3号車）として配置
	9.	1	水難救助機器を購入
	9.	17	本署水槽付消防ポンプ自動車更新
	12.	17	小山分署指令車を広報車（広報2号車）として本部に配置 駿河信用金庫から指令車2台が寄贈され、消防本部（更新）と小山分署に配置
昭和51.	3.	19	消防本部広報車（広報1号車）更新
	4.	1	消防音楽隊を編成
	6.	21	消防水難救助隊を編成
	7.	8	化学消防ポンプ自動車を購入し、本署に配置
	10.	1	御殿場市中山473番地の1に御殿場市・小山町広域行政組合消防署富士岡分遣所を設置。職員10人、水槽付消防ポンプ自動車1台で業務開始
昭和52.	4.	1	消防職員4人採用、職員数84人（職員定数86人）
昭和53.	1.	1	消防職員1人採用
	3.	7	消防庁長官から竿頭授受賞
	3.	20	救急一斉指令装置を導入、運用開始
	4.	1	通信指令室及び管理課企画広報係を新設
	8.	1	日本テトラパック(株)から赤パイ2台が寄贈され、本署に配置
	8.	29	財団法人日本船舶振興会から救急自動車1台寄贈され、小山分署救急自動車を更新
	9.	28	富士岡分遣所に作業車を配置 小山分署に作業車を配置
	10.	1	本署に作業車を配置
昭和54.	4.	1	消防職員5人採用、職員数90人（職員定数91人）
	4.	1	当直司令制度運用開始
	7.	24	静岡県トラック協会から救急自動車1台が寄贈され、本署救急自動車（救急2号車）を更新 更新前救急自動車（救急2号車）を予備車として富士岡分遣所に配置
	8.	8	消防本部広報車（広報2号車）更新
	10.	1	富士岡分遣所に職員2人増員 富士岡分遣所で救急業務開始
昭和55.	4.	1	消防職員13人採用、職員数102人（職員定数103人）
	11.	1	小山町須走293番地の1に御殿場市・小山町広域行政組合消防署須走分遣所を設置、職員13人、水槽付消防ポンプ自動車1台、救急自動車1台、連絡車1台で業務開始 各分遣所長を補佐級とする 富士岡分遣所の職員を1人増員 東海精機(株)から自記気象観測装置と消防無線機が寄贈される
	12.	19	高所放水作業車を購入、本署に配置
昭和56.	9.	21	社団法人日本損害保険協会から水槽付消防ポンプ自動車1台が寄贈され小山分署水槽付消防ポンプ自動車を更新
昭和56.	10.	31	本署救急自動車（救急1号車）と富士岡分遣所救急自動車を更新
	11.	16	小山分署消防ポンプ自動車更新

- 昭和57. 1. 1 消防職員1人採用
3. 23 社団法人日本損害保険協会から救急自動車1台が寄贈され、小山分署救急自動車を更新
4. 1 消防本部・消防署組織の機構改革実施、本部は管理課（管理係・消防係・企画広報係）・予防課（予防係・指導係・危険物係）・警防課（警防係・教養係）で構成、消防署は本署（庶務係・機械係・査察係・救急救助係・通信指令係）と、消防署小山分署、消防署富士岡分遣所、消防署須走分遣所で構成
本署当直に当直司令制採用、補佐が当直司令に当たる
10. 19 財団法人日本防火協会から御殿場市小山町防火協会に広報車が寄贈され、消防本部広報車（広報3号車）として配置
- 昭和58. 2. 22 米軍キャンプ富士（滝ヶ原）司令官と消防相互援助協約を締結
11. 1 富士岡分遣所水槽付消防ポンプ自動車更新
- 昭和59. 1. 1 消防長が専任となる
4. 1 消防職員2人採用、職員数103人（職員定数103人）
12. 21 本署消防ポンプ自動車更新
- 昭和60. 4. 1 消防職員3人採用、職員数106人（職員定数111人）
12. 9 消防本部指令車更新
12. 25 小山分署作業車更新
- 昭和61. 1. 14 本署作業車更新
3. 14 社団法人日本損害保険協会から救急自動車1台が寄贈され、本署救急自動車（救急2号車）更新
4. 1 消防職員4人採用、職員数108人（職員定数111人）
消防本部に通信指令室を置き、管理課消防係を警防課に編入、消防署機械係を警防係に名称変更
6. 20 富士岡分遣所の作業車更新
8. 29 査察車を1台購入、予防課に配置
- 昭和62. 3. 12 米軍キャンプ富士（滝ヶ原）司令官と消防相互援助協約を変更締結
3. 30 本署水槽付消防ポンプ自動車更新
4. 1 消防職員5人採用、職員数114人（職員定数119人）
消防本部管理課に人事係新設
4. 24 本署水槽付消防ポンプ自動車更新により不要になった水槽付消防ポンプ自動車を中国蘭州市へ寄贈
12. 1 消防職員1人採用
12. 24 本署救急自動車（救急1号車）、消防本部広報1号車更新
東名高速道路（御殿場～沼津インターチェンジ間の下り線）の消防及び救急業務が裾野インターチェンジ開設に伴い御殿場～裾野インターチェンジ間の下り線に変更される
- 昭和63. 4. 1 消防職員3人採用、職員数（御市総務課付職員1人含）116人（職員定数119人）
7. 23 赤バイ2台を老朽化により廃車
10. 21 須走分遣所救急自動車更新
11. 29 東名上り線63KPで発生した車両火災（06：32）に出動中の本署水槽付消防ポンプ自動車の後続車に追突され横転大破、消防職員5人が負傷
12. 17 小山分署指令車更新
- 平成元. 1. 7 消防本部広報車（広報2号車）更新
平成元. 4. 1 消防職員1人採用、職員数（御市総務課付職員1人含）116人（職員定数119人）小山分署で小山町消防団事務開始
6. 29 本署水槽付消防ポンプ自動車更新

平成 2.	2. 14	本署救助工作車更新
	3. 22	富士岡分遣所救急自動車更新
	4. 1	消防職員 5 人採用、職員数（御市総務課付職員 1 人含）120 人 （職員定数 119 人）
	9. 25	須走分遣所連絡車更新
平成 3.	3. 12	本署化学消防ポンプ自動車更新
	3. 15	小山分署救急自動車更新
	4. 1	消防職員 4 人採用、職員数（御市総務課付職員 1 人含）120 人 （職員定数 119 人）
	9. 12	社団法人日本損害保険協会から水槽付消防ポンプ自動車 1 台が寄贈され、富士岡分遣所水槽付消防ポンプ自動車を更新
平成 4.	2. 10	本署救急自動車（救急 1 号車）更新
	3. 19	小山分署水槽付消防ポンプ自動車更新
	4. 1	消防職員 1 人採用、職員数（御市総務課付職員 1 人含）120 人 （職員定数 119 人）
	8. 31	新消防庁舎工事起工式
平成 5.	3. 15	本署救急自動車（救急 2 号車）更新
	3. 22	須走分遣所水槽付消防ポンプ自動車更新
	4. 1	消防職員 2 人採用、職員数（御市総務課付職員 1 人含）122 人 （職員定数 134 人）
		完全週休 2 日制実施
平成 6.	4. 1	御殿場市と係長級 1 名の人事交流を実施 消防職員 7 人採用、職員数（御市総務課付職員 1 人含）126 人 （職員定数 134 人）
	4. 2	御殿場市東田中一丁目 19 番 1 号に消防庁舎が移転し、業務開始 消防緊急通報指令施設（Ⅱ型）運用開始 静岡県総合情報ネットワーク運用開始
	4. 22	御殿場市小山町危険物安全協会、御殿場市小山町防火協会から広報車 1 台寄贈され消防本部広報車（広報 3 号車）更新
	4. 28	消防庁舎落成式
	7. 27	消防無線救急波の運用開始
	11. 18	はしご付消防ポンプ自動車（30m級）を購入し、本署に配置し 本署高所放水作業車廃車
平成 7.	1. 31	小山分署消防ポンプ自動車更新
	4. 1	消防職員 6 人採用、職員数（御市総務課付職員 1 人含）131 人 （職員定数 134 人）
	6. 30	全国消防機関による緊急消防援助隊発足（東京）
	7. 31	化学防護服（ワークマスタープロ）3 着購入
	8. 20	聴覚言語障害者の緊急通報システム運用開始
	8. 22	静岡県緊急消防援助隊の編成にかかる協議の結果、御殿場小山消防本部は、消火隊 1 隊を県外応援可能隊とする
	9. 5	静岡県は、緊急消防援助隊を編成し消防庁に登録 御殿場市・小山町広域行政組合消防本部消火隊は、常時出動可能 体制維持開始
	10. 18	震災対策用後方支援資機材（テント・シュラフ等）購入
	10. 19	特殊作業服（戦闘用防護衣一式）12 着購入
平成 7.	10. 30	緊急消防援助隊要綱制定 御殿場市・小山町広域行政組合消防本部に部隊旗が交付
	11. 27	小山分署作業車更新
平成 8.	3. 11	本署消防ポンプ自動車更新

	3.	2	2	震災対策用救助資機材（油圧救助器具等）購入	
	4.	1		消防職員 5 人採用、職員数（御市総務課付職員 1 人含）1 3 3 人 （職員定数 1 5 0 人） 東名高速道路上り線無線不感地帯対策として前進基地局整備	
	6.	5		富士岡分遣所連絡車更新	
	7.	2		震災対策用救助資機材（ファイバースコープ等）購入 災害情報収集用オートバイ 2 台購入	
	7.	3	1	消防本部指令車更新	
	8.	3	1	静岡県総合防災訓練	
	9.	1		静岡県総合防災訓練	
平成 9.	2.	1	3	小山分署庁舎増築工事 2 5 9. 2 4 m ²	
	2.	1	8	須走分遣所救急車（2 B 型）更新	
	4.	1		消防職員 4 人採用、職員数（御市総務課付職員 1 人含）1 3 7 人 （職員定数 1 5 0 人）	
	6.	2	0	西分遣所庁舎建設工事起工式	
平成 1 0.	1.	2	5	西分遣所応急作業車購入	
	2.	1	2	西分遣所水槽付消防ポンプ自動車購入	
	2.	2	3	西分遣所救急車（2 B 型）購入	
	3.	1	4	西分遣所庁舎建設工事落成式	
	4.	1		消防職員 8 人採用（内女性 2 人）、職員数（御市総務課付職員 1 人含）1 4 4 人（職員定数 1 5 0 人） 西分遣所運用開始 職員 1 5 名配置	
	1 1.	3	0	富士岡分遣所庁舎耐震補強及び事務所増築工事 1 6. 7 1 m ²	
平成 1 1.	3.	1	6	小山分署救助工作車購入	
	4.	1		消防職員 4 人採用、職員数（御市総務課付職員 1 人含）1 4 7 人 （職員定数 1 5 0 人） 消防本部・消防署の組織改革により課内のスタッフ制全面移行	
	8.	1	8	消防本部査察車更新	
	1 2.	2	1	須走分遣所庁舎耐震補強及び事務所増築工事 1 7. 5 7 m ²	
平成 1 2.	2.	2	4	高規格救急自動車を購入し本署に配置、更新前の救急車を富士岡分遣所に配置し、富士岡分遣所の救急自動車を廃車	
	4.	1		消防職員 3 人採用（内女性 1 人）、職員数（御市総務課付職員 1 人含）1 4 9 人	
	1 1.	1	5	社団法人日本損害保険協会から水槽付消防ポンプ自動車 1 台が寄贈され、本署水槽付消防ポンプ自動車を更新	
平成 1 3.	3.	1	6	小型動力ポンプ付水槽車を購入、本署に配置	
	4.	1		消防職員 6 人採用、職員数（御市総務課付職員 1 人含）1 5 0 人	
	1 2.	1	4	小山分署指令車更新	
	1 2.	1	5	小山分署耐震補強工事完了	
	1 2.	2	1	本部広報 1 号車更新	
平成 1 4.	4.	1		消防職員 3 人採用、職員数（御市総務課付職員 1 人含）1 5 0 人 消防機構を見直し、小山分署を小山消防署とし富士岡分遣所・須走分遣所・西分遣所を富士岡分署・須走分署・西分署とする	
	9.	4		須走分署作業車更新	
	1 1.	1	9	消防本部広報 2 号車更新	
平成 1 5.	2.	2	6	小山消防署救急車更新（高規格救急車）	
平成 1 5.	4.	1		消防職員 3 人採用、職員数（御市総務課付職員 1 人含）1 4 8 人 御殿場市役所派遣 1 人	
平成 1 6.	3.	1	0	御殿場消防署富士岡分署救急車更新（高規格救急車）	
	4.	1		消防職員 5 人採用、職員数 1 4 8 人（御殿場市役所派遣 1 人）	
平成 1 7.	2.	7		御殿場消防署救助工作車更新（Ⅱ型四駆）	

	4.	1	消防職員 2 人採用、職員数 1 4 7 人（御殿場市役所派遣 1 人）
	1 2.	2 0	御殿場ライオンズクラブから火災予防広報車が寄贈され、消防本部連絡車を更新
平成 1 8.	2.	1 6	御殿場消防署西分署救急車更新（高規格救急車）
	3.	1 5	小山消防署訓練塔建設 A・B 塔 建築面積 6 1. 6 m ²
	4.	1	消防職員 7 人採用、職員数 1 4 7 人（静岡県消防学校派遣 1 人）
平成 1 9.	2.	1 6	御殿場消防署富士岡分署水槽付ポンプ自動車更新
	3.	9	小山消防署水槽付ポンプ自動車更新
	4.	1	消防職員 5 名採用、職員数 1 4 9 人（静岡県消防学校派遣 1 人）
平成 2 0.	3.	1 3	小山消防署須走分署水槽付ポンプ自動車更新
	4.	1	消防職員 3 人採用、職員数 1 4 8 人（御殿場市役所派遣 1 人） 須走彰徳山林会から AED 及び AED 講習会用資器材一式が寄贈される
	1 1.	1 1	御殿場市小山町防火安全協会から防火指導車が寄贈される
平成 2 1.	4.	1	消防職員 4 人採用、職員数 1 5 0 人（御殿場市役所派遣 1 人）
	1 2.	1 1	小山消防署作業車更新
平成 2 2.	3.	1 6	消防緊急通信指令施設 II 型更新
	4.	1	消防職員 5 人採用、職員数 1 5 2 人（御殿場市役所派遣 1 人）
	1 0.	2 2	小山消防署須走分署救急車更新（高規格救急車）
	1 1.	1 5	全国共済農業協同組合連合会静岡県本部及び御殿場農業協同組合から救急車が寄贈され、御殿場消防署救急 1 号車を更新（高規格救急車）
平成 2 3.	2.	2 4	御殿場消防署化学消防ポンプ自動車（II 型）更新
	4.	1	消防職員 4 人採用、職員数 1 5 1 人（御殿場市役所派遣 1 人）
平成 2 4.	2.	8	御殿場消防署救急車更新（高規格救急車）
	3.	1	静岡県防災ヘリコプター航空隊派遣 1 名
	4.	1	消防職員 4 人採用、職員数 1 5 3 人（御殿場市役所派遣 1 人）
	7.	3 0	消防本部査察車更新
平成 2 5.	2.	2 2	小山消防署救急車更新（高規格救急車）
	2.	2 7	総務省消防庁から後方支援車が貸与された
	4.	1	消防職員 5 人採用、職員数 1 5 5 人（御殿場市役所派遣 2 人）
平成 2 6.	2.	2 1	小山消防署消防ポンプ自動車 更新
	2.	2 5	御殿場消防署富士岡分署救急車 更新（高規格救急車）
	3.	4	土屋昌美様から軽貨物自動車（ダイハツ軽トラック 1 台）また、救急資機材も寄贈された（エアウェイスコープ 2 台）
	3.	3 1	団塊の世代 消防職員 1 0 人が退職する
	4.	1	消防職員 5 人採用、職員数 1 5 1 人（御殿場市役所派遣 1 人）
平成 2 7.	2.	1 8	御殿場消防署消防ポンプ車更新
	4.	1	消防職員 6 人採用、職員数 1 5 1 人（御殿場市役所派遣 2 人）
	1 2.	1 5	消防デジタル無線運用開始
平成 2 8.	4.	1	消防職員 6 人採用、職員数 1 5 3 人（御殿場市役所派遣 2 人）
	1 1.	1 6	消防本部指令車更新
平成 2 9.	2.	2 0	御殿場消防署西分署水槽付ポンプ自動車更新
	4.	1	消防職員 6 人採用（内女性 1 人）、職員数 1 5 3 人（御殿場市役所派遣 1 人、広域行政組合事務局出向 1 人）
平成 3 0.	2.	7	小山消防署救助工作車更新
	2.	1 5	御殿場消防署指揮車更新
	4.	1	消防職員 8 人採用、職員数 1 5 2 人（御殿場市役所派遣 1 人、広域行政組合事務局出向 1 人）

主 な 災 害

- 昭和41. 3. 5 富士山麓太郎坊原野に英国海外航空（BOAC）ボーイング
707型機が墜落し乗員乗客124人全員死亡
9. 24～25 台風24号と26号が日本列島を縦断する 御殿場市の被害は
負傷者2人、住家全壊6戸、半壊382戸、床下浸水多数、罹災
世帯2,231世帯、罹災者11,155人、
被害総額6億9,109万円
御殿場市に初めて「災害救助法」適用
小山町では家屋の倒壊15戸、床下浸水17戸、田畑の流出・
埋没33ヶ所、被害総額は3,062万円
- 昭和43. 1. 10 御殿場市新橋（御殿場駅前繁華街）から出火 重軽症者8人、
焼損棟数18棟、焼失面積1,106㎡、損害額8,006万円
- 昭和45. 11. 2 御殿場市川島田の中学校から出火 焼失面積560㎡、損害額
1,435万円
- 昭和46. 9. 22 御殿場市東田中の給油取扱所から出火 死者1人、重軽傷者3
人、焼失面積207㎡、損害額821万円
11. 1 御殿場市駒門（自衛隊前飲食店街）から出火 死者1人、焼損
棟数6棟、焼失面積623㎡、損害額3,017万円
- 昭和47. 2. 1 東名高速道路下り線94.5KPで、車両37台の多重追突事
故により出火 死者2人、重軽傷者31人、焼損車両7台、損害
額5,500万円
3. 20 富士山新2合目付近の雪崩遭難事故により、死者24人、延べ
出動人員約4,000人、現場稼働車両等65台
7. 12 静岡県東部に集中豪雨 御殿場市では床上・床下浸水138世
帯、田畑の流出冠水等672ha、被害総額2億5,393万円
小山町では死者2人、災害出動中の消防団員1人が行方不明、負
傷者8人、住家全壊29戸、流失4棟、非住家全半壊18戸、床
上浸水210戸、罹災世帯250世帯 罹災者数1,713人、
被害総額23億306万円
- 昭和48. 11. 23 小山町大御神のレース場でレーシングカー事故により出火死者
1人、負傷者4人、レーシングカー全焼4台
損害額2億3,679万円
- 昭和49. 6. 2 小山町大御神のレース場でレーシングカー事故により出火死者
2人、負傷者5人、レーシングカー4台全焼、レーシングカー3
台部分焼、損害額4,328万円
- 昭和50. 12. 4 御殿場市大坂の工場（スチール家具製造）から出火 焼失面積
1,440㎡、損害額1億2,500万円
12. 12 御殿場市大坂の工場（シール製造）から出火 機械等を焼失、
焼失面積320㎡、損害額3,000万円
- 昭和53. 1. 1 御殿場市中清水の神社より出火 焼失面積79㎡
損害額1,900万円
3. 25 御殿場市新橋（新天地OK横丁）から出火。15店舗及び1旅
館が焼失、焼失面積777㎡、損害額4,500万円
- 昭和54. 2. 18 御殿場市新橋（御殿場駅前味一番街）から出火。7店舗焼失、
焼失面積316㎡、損害額1,604万円

10. 19 台風20号による御殿場市の被害は、住宅全壊10戸、半壊4戸、流失1戸、床上浸水42戸、床下浸水810戸で、総雨量300mm、損害額23億394万円
- 昭和54. 10. 19 この豪雨で米軍キャンプ富士敷地内のガソリン貯蔵袋が破損し、大量のガソリンが立ち並ぶ兵舎内に流入し、ストーブの火により出火、隣接する建物に次々に引火し、死傷者約50人、焼損棟数全焼14棟、半焼1棟、部分焼3棟、延焼失面積1,385㎡、損害額2,982万円
 小山町の被害は、死者1人、住家全壊5戸、半壊2戸、一部破損3戸、非住家全壊4戸、半壊3戸、流失3戸、一部破損1戸、床上浸水33戸、床下浸水129戸、損害総額27億4,823万円、総雨量237mm
12. 15 御殿場市新橋（駅前中野交差点付近商店街）から出火 焼失5店舗、焼失面積1,342㎡、損害額1億7,000万円
- 昭和55. 7. 24 小山町小山の工場（紡績）で落雷により出火 焼失面積135㎡ 損害額3,378万円
- 昭和56. 9. 5 陸上自衛隊のヘリコプターが御殿場市中畑地先の演習場内に墜落 2人死亡
- 昭和57. 6. 8 神奈川県大井町へ行方不明者捜索出動 他57年中に5件の行方不明者の捜索出動
8. 1 台風10号による御殿場市の被害は、住家半壊5戸、一部破損1戸、床上浸水21戸、床下浸水107戸、損害総額18億530万円、総雨量555mm
 小山町の被害は住家全壊2戸、住家半壊3戸、一部破損35戸、床上浸水7戸、床下浸水84戸、損害総額36億9,850万円 総雨量457mm
- 昭和58. 3. 11 小山町茅沼の公民館から出火 焼損棟数1棟、焼失面積106㎡ 損害額1,152万円
8. 8 神奈川県西部を震源に、M5.8、震度5程度の地震が発生 御殿場市では家屋及び石垣等の被害4ヶ所 小山町では軽傷者1人、家屋道路、橋梁、河川、農業施設、農地、文教公共施設、水道、電気通信、企業等157ヶ所の被害、被害総額4億4,775万円
- 昭和59. 9. 28 御殿場市茱萸沢の工場で100円ガスライターのガス漏洩により出火 焼損棟数3棟、焼失面積362㎡、ライター164万個焼失、損害額5,512万円
- 昭和60. 5. 5 御殿場市茱萸沢の工場から出火 焼損棟数1棟、焼失面積427㎡ ライター216万個焼失、損害額9,031万円
12. 13 御殿場市保土沢の工場（車両座席シート製造）から出火 焼損棟数1棟、焼失面積189㎡、損害額2,836万円
- 昭和61. 3. 8 小山町須走でトラックの積載品が荷くずれ落下し、積載品100円ガスライターのガス漏洩により出火 焼損車両1台、ライター15万6千個を焼失、損害額486万円
- 昭和63. 10. 25 小山町須走の東富士五湖道路籠坂トンネル工事現場で、時限発火装置により出火、工事車両3台が焼失、損害額268万円
10. 28 御殿場市沼田の集会場から出火 焼失面積84㎡、損害額1,065万円
11. 4 御殿場茱萸沢でトラックが荷くずれを起こし、積載品の100円ガスライターからの漏洩したガスにより出火 焼損車両1台、ガスライター13万6千個を焼失、損害額343万円
- 平成 3. 6. 22 御殿場市川島田の作業所（車庫）で不発弾の爆発事故 この事故

- に伴い出火 死者2人、現場付近にいた主婦等3名が負傷、焼損棟数全焼1棟、付近の民家14戸の窓ガラスが割れる被害、焼失面積199㎡、損害額2,132万円
- 平成 7. 4. 20 金時山頂で急病人 救助隊が出動、救出活動（救出1名）
- 平成 7. 6. 1 金時山頂付近で中学生滑落事故 救助隊が出動、県警・防災ヘリコプターと連携し救出（救出1名）
8. 10 東名高速道路上り線64.9KPで発生した交通事故で、大型観光バスが大破 バスの乗員乗客43人（死者3人、重軽症者40人）を足柄上消防、神奈川県警高速隊、道路公団と連携し救出（使用車両20台、人員45人）
- 平成 8. 3. 6 東京電力（株）新富士変電所で地震動により変圧器から絶縁油が漏れアークにより出火、損害額2,200万円
- 平成11. 11. 15 御殿場市萩原地先で建設中の木造3階建て教場及び共同住宅から出火、焼損棟数1、焼損面積1,950㎡、車両16台焼失、損害額6億413万円
- 平成12. 12. 16 御殿場市神山地先から出火、鉄骨造平屋2棟を焼失、焼損棟数2棟焼損面積356.4㎡、車両1台、損害額3,075万円
12. 30 小山町小山地先の店舗併用住宅から出火、焼損建物店舗併用住宅3棟、物置2棟を焼失、焼損面積440.94㎡、損害額2,472万円
- 平成13. 7. 24 鉄砲水の久保川で富士岡中学校生徒1名が行方不明、消防団、消防署、県防災ヘリコプターが出動、捜索（捜索人員延べ530人）
7. 25 水難救助隊により、水死者1名を発見収容
- 平成14. 3. 1 平成13年9月11日、米国の同時多発テロ事件に伴い、総務省消防庁より、生物・化学テロ対応資機材として陽圧式化学防護服5着、生物剤検知紙1式、有毒ガス検知管1式、化学剤検知紙1式、化学剤検知管1式、除染シャワー1式、中和剤散布器2器、防毒マスク18式を貸与
- 平成15. 5. 3 御殿場市中畑で不発弾爆発事故 死者1名
- 平成16. 1. 14 国道246号線、萩原北交差点付近にて大型貨物自動車8台による多重追突事故 救助工作車2台、ポンプ隊（水槽付消防ポンプ車）2隊、救急隊5隊、隊員25人が出動し、4名の要救助者を救出
10. 21 御殿場市深沢地先、のんと橋、台風23号の影響で男性1名が水死 救助工作車1台、消防ポンプ自動車1台、指令車1台、資機材搬送車1台、救急車1台、隊員24人が出動
12. 5 台風27号の影響で御殿場市塚原地先にて家屋が倒壊、負傷者3名、救急隊1隊3人が出動
- * 平成16年の台風上陸個数は、気象庁の統計開始以来の記録（6個）を大きく更新し10個を記録
- 平成17. 8. 15 富士山御殿場口、大石茶屋付近にパラグライダーが墜落。指揮車1台救急車1台、山岳救助班2隊が出動
9. 13 国道138号線、仁杉バス停付近にて自衛隊トレーラーによる多重追突事故 救助工作車1台、化学車1台、救急車5台が出動し負傷者12名を搬送
- 平成18. 4. 2 東名高速道路下り線91.1KP付近にて9台が関連した多重事故 救助工作車2台、消防ポンプ自動車2台、救急車4台、他に裾野市消防本部救助工作車1台、救急車1台、長泉町消防本部救急車1台、三島市消防本部救急車1台、沼津市消防本部救急車1台の応援出動により、負傷者13名（要救助者7名）を搬送
- 平成19. 9. 6 台風9号による御殿場市の被害は床上浸水13戸、床下浸水31

- 戸、特に富士岡地区は黄瀬川の氾濫により、甚大なる被害を受ける
被害総額3億4千百万円 総雨量631mm 小山町は鮎沢川の氾濫により、生土地区の護岸の破壊をはじめ、各所で甚大なる被害となる 被害総額3億8千4百万円 総雨量338mm
- 平成20. 6. 11 御殿場市新橋地先の商店街から出火、全焼1棟、部分焼3棟、焼損面積325㎡、損害額6,765万円
- 平成20. 12. 6 金時山乙女側登山道山頂付近で急病人、箱根町消防、御殿場消防が出動、県防災ヘリコプターと連携し、1名を救出
- 平成21. 11. 1 富士スピードウェイ内ドリフトコース駐車場で卓上コンロ爆発事故、6名が負傷。指揮車1台、消防車2台、救助工作車1台、救急車3台、ドクターヘリ3機(東部・西部・東海大)出動
11. 16 須走オートパラダイス付近で観光バスと乗用車の正面衝突事故、9名が負傷 指揮車1台、消防車1台、救助工作車1台、救急車5台出動
- 平成22. 9. 8 小山消防署管内風水害災害、台風9号の影響で野沢川の氾濫により、小山地区下野沢橋が決壊し、藤曲地区の六合橋付近の護岸の破壊及び須川の氾濫により養魚場が破壊された。また柳島地区の町道足柄三保線が決壊するなど各所で甚大なる被害となる
なお、この災害により小山町の被害は住宅全壊6件、大規模半壊7件、半壊18件、床上浸水14件、その他全壊8件、その他大規模半壊2件、その他半壊6件、その他床上11件、床下浸水94件、その他床下13件土砂崩れ92件、水路被害32件、護岸決壊14件、道路崩落29件、河川被害12件、倒木6件、土嚢要請24件、通行止め21箇所、断水なし、停電なし
時間雨量最大 97.0mm 総雨量367.0mm (小山消防署)
時間雨量最大127.5mm 総雨量593.5mm (小山消防署須走分署)
- 平成23. 8. 21 東名高速道路上り線65.2KPでワゴン車の単独横転事故が発生し、1名死亡、9名が負傷 指揮車1台、消防車1台、救助工作車1台、救急車5台、隊員23名が出動し負傷者9名を搬送
- 平成23. 9. 21 台風15号(浜松市上陸)の影響で市町内各地において、風水害の被害が発生した。特に御殿場市では、最大瞬間風速45.9m/sを記録し、家屋の一部破損10棟、倒木などの風による被害が目立ち、負傷者も3名発生した 停電(御殿場市8区 小山町3区)
時間雨量最大54.5mm 総雨量363mm (御殿場消防署西分署)
時間雨量最大63.5mm 総雨量484mm (小山消防署須走分署)
- 平成26. 2. 14 低気圧接近に伴い大雪警報発令10:53 市町内各地において、大雪による被害が発生した。
小山町では小山消防署管内の積雪量が61cm 須走分署管内の積雪量は100cmで須走東災害対策センターに現地災害対策本部が設置され、小山町長から県知事へ自衛隊災害要請をする。
御殿場市では御殿場消防署管内の積雪量が85cm 富士岡分署管内の積雪量が55cm 西分署管内の積雪量が59cmで御殿場市災害対策本部が設置された。

道路の規制状況

道路名	通行止め区間	開始日時	解除日時
東名高速道路	上り(東京IC～清水IC)	15日02:45	16日22:00
	下り(東京IC～沼津IC)	16日13:30	16日22:00
新東名高速道路	上下(御殿場JCT～長泉沼津IC)	14日09:00	17日17:10
東富士五湖道路	上下(須走IC～富士吉田IC)	14日12:20	20日00:00
国道246号	通行止めなし。ただし片側1車線のみ通行可の時間帯があった。		
国道138号	深沢東～県境(乙女峠、静岡県管理)	15日00:00	20日15:00
	山中湖村平野～小山町須走	15日01:15	18日21:00

公共交通機関の状況

J R 御殿場線	17日 始発から通常運行
富士急行バス(路線バス)	22日 上野線(24日再開)を除き 運行再開
タクシー会社	17日 営業再開

- 平成27. 11. 27 J R 御殿場駅周辺市街地である御殿場市茱萸沢地先の住宅から出火、全焼1棟、焼損面積80㎡、損害額476万円、死者1名
- 平成28. 5. 26 小山町中日向地先の住宅から出火、全焼1棟、焼損面積196㎡、損害額381万円、死者1名
- 平成29. 2. 11 御殿場市中丸地先の住宅から出火、全焼1棟、焼損面積164㎡、損害額2,136万円、死者1名

御殿場市・小山町広域行政組合の沿革・組織

組織する地方公共団体 御殿場市及び小山町

沿 革

昭和41年4月1日	御殿場市・小山町厚生施設組合発足 じんかい焼却場、隔離病舎及び火葬場業務の管理運営に関する事務を共同処理開始
昭和46年4月1日	小山町との御殿場市・小山町厚生施設組合を改組し、新たに消防業務を加え御殿場市・小山町広域行政組合を設立
昭和48年7月5日	隔離病舎を廃止
昭和51年4月1日	し尿処理業務を加える (1) 消防に関する事項 (消防団に係るもの並びに水利施設の設置維持及び管理に関するものを除く) (2) 火葬場に関する事項 (3) じんかい焼却場に関する事項 (4) し尿処理に関する事項
平成10年4月1日	じんかい焼却場をごみ処理場に変更

組織の状況

(1) 執行機関

管 理 者	1名	御殿場市・小山町の長の互選による 任期 御殿場市・小山町のその職にある期間
副 管 理 者	2名	御殿場市・小山町の長のうち管理者とならないもの 市町の副市町長のうちから選出 任期 御殿場市・小山町のその職にある期間
会 計 管 理 者	1名	管理者の属する市町の会計管理者
監 査 委 員	2名	議会選出、学識経験者 任期 2年

(2) 議 会

定 数	12名	御殿場市・小山町の議会において市町の議会の議員のうちから選挙する 御殿場市 7名 小山町 5名
定 例 会	毎年2回	3月及び9月

消防本部発足以降歴代市長・管理者・消防長・消防署長

市 長

昭和40年	4月	1日	～	昭和44年	2月	6日	勝又藤男
昭和44年	2月	7日	～	昭和46年	3月	31日	鈴木勝巳

管 理 者

昭和46年	4月	1日	～	昭和56年	2月	6日	鈴木勝巳(御殿場市長)
昭和56年	2月	7日	～	平成5年	2月	6日	大庭健三(御殿場市長)
平成5年	2月	7日	～	平成13年	2月	6日	内海重忠(御殿場市長)
平成13年	2月	7日	～	平成21年	2月	6日	長田開蔵(御殿場市長)
平成21年	2月	7日	～	現		在	若林洋平(御殿場市長)

消 防 長

昭和40年	4月	1日	～	昭和44年	3月	31日	木村賢(御殿場市助役)
昭和44年	4月	1日	～	昭和52年	3月	31日	子上孝吉(御殿場市助役)
昭和52年	4月	1日	～	昭和52年12月	11日		鈴木勝巳(御殿場市長)
昭和52年12月	12日	～		昭和57年	3月	31日	江藤泰勝(御殿場市総務部長)
昭和57年	4月	1日	～	昭和58年	3月	31日	後藤尚平(御殿場市総務部長)
昭和58年	4月	1日	～	昭和58年12月	31日		関口達夫(消防長事務代理)
昭和59年	1月	1日	～	昭和63年	3月	31日	関口達夫
昭和63年	4月	1日	～	平成4年	3月	31日	田代哲朗
平成4年	4月	1日	～	平成7年	3月	31日	羽田督
平成7年	4月	1日	～	平成10年	3月	31日	勝間田喜代弘
平成10年	4月	1日	～	平成12年	3月	31日	長田勇
平成12年	4月	1日	～	平成15年	3月	31日	長田洋一
平成15年	4月	1日	～	平成18年	3月	31日	勝間田嘉雄
平成18年	4月	1日	～	平成19年	3月	31日	平野昭弘
平成19年	4月	1日	～	平成23年	3月	31日	鈴木平作
平成23年	4月	1日	～	平成26年	3月	31日	長田利一
平成26年	4月	1日	～	平成28年	3月	31日	渡邊秀晃
平成28年	4月	1日	～	平成30年	3月	31日	田代佳丸
平成30年	4月	1日	～	現		在	村松秀樹

消防署長

昭和40年	4月	1日	～	昭和45年	3月	31日	鳥居恭男
昭和45年	4月	1日	～	昭和52年	3月	31日	勝亦豊
昭和52年	4月	1日	～	昭和56年12月	31日		芹沢勇一
昭和57年	1月	1日	～	昭和59年	3月	31日	田代哲朗
昭和59年	4月	1日	～	昭和61年	3月	31日	勝亦延夫
昭和61年	4月	1日	～	平成1年	3月	31日	鈴木幸助
平成1年	4月	1日	～	平成3年	3月	31日	三井一郎
平成3年	4月	1日	～	平成6年	3月	31日	増田眞助
平成6年	4月	1日	～	平成7年	3月	31日	長田勇
平成7年	4月	1日	～	平成10年	3月	31日	長井傳嘉
平成10年	4月	1日	～	平成12年	3月	31日	鈴木喜久

平成12年 4月 1日 ~ 平成14年 3月31日 勝又昭雄

御殿場消防署長

平成14年 4月 1日 ~	平成17年 3月31日	齊藤伊三男
平成17年 4月 1日 ~	平成18年 3月31日	平田敏雄
平成18年 4月 1日 ~	平成19年 3月31日	芹澤民雄
平成19年 4月 1日 ~	平成23年 3月31日	勝又敏美
平成23年 4月 1日 ~	平成24年 3月31日	芹沢裕司
平成24年 4月 1日 ~	平成26年 3月31日	田邊修
平成26年 4月 1日 ~	平成27年 3月31日	梶本雅彦
平成27年 4月 1日 ~	平成28年 3月31日	田代公一
平成28年 4月 1日 ~	平成29年 3月31日	村上武
平成29年 4月 1日 ~	平成30年 3月31日	勝間田淳欣
平成30年 4月 1日 ~	現 在	岩田誠

小山消防署長

平成14年 4月 1日 ~	平成15年 3月31日	勝間田嘉雄
平成15年 4月 1日 ~	平成17年 3月31日	平田敏雄
平成17年 4月 1日 ~	平成18年 3月31日	山口富雄
平成18年 4月 1日 ~	平成19年 3月31日	勝又敏美
平成19年 4月 1日 ~	平成22年 3月31日	込山久美
平成22年 4月 1日 ~	平成23年 3月31日	長田利一
平成23年 4月 1日 ~	平成24年 3月31日	田邊修
平成24年 4月 1日 ~	平成26年 3月31日	芹澤栄
平成26年 4月 1日 ~	平成27年 3月31日	勝間田健一郎
平成27年 4月 1日 ~	平成29年 3月31日	山本孝信
平成29年 4月 1日 ~	平成30年 3月31日	佐藤清
平成30年 4月 1日 ~	現 在	込山眞治

御殿場市・小山町歴代消防団長

御 殿 場 市

(昭和30年以降)

昭和30年	2月11日	～	昭和40年	3月31日	江 藤 栄
昭和40年	4月1日	～	昭和53年	3月31日	今 坂 勝 利
昭和53年	4月1日	～	昭和60年	3月31日	勝 亦 茂 樹
昭和60年	4月1日	～	平成1年	3月31日	土 屋 勝
平成1年	4月1日	～	平成5年	3月31日	野 木 国 員
平成5年	4月1日	～	平成7年	3月31日	穂 坂 昭 夫
平成7年	4月1日	～	平成13年	3月31日	長 田 良 一
平成13年	4月1日	～	平成17年	3月31日	勝 俣 清 一
平成17年	4月1日	～	平成21年	3月31日	高 田 知
平成21年	4月1日	～	平成25年	3月31日	勝 間 田 千 弘
平成25年	4月1日	～	平成29年	3月31日	勝 亦 修 治
平成29年	4月1日	～	現	在	大 胡 田 明 寿

小 山 町

(昭和31年10月以降)

昭和31年10月	1日	～	昭和36年	3月31日	山 崎 賢 三
昭和36年	4月1日	～	昭和42年	3月31日	清 水 亥 之 助
昭和42年	4月1日	～	昭和47年	3月31日	安 田 鏝 一
昭和47年	4月1日	～	昭和55年	3月31日	中 川 保
昭和55年	4月1日	～	昭和57年	3月31日	音 淵 佐 一
昭和57年	4月1日	～	昭和59年	3月31日	湯 山 保
昭和59年	4月1日	～	昭和63年	3月31日	鈴 木 敏 一
昭和63年	4月1日	～	平成3年	3月31日	秋 田 信 嘉
平成3年	4月1日	～	平成7年	3月31日	勝 俣 昭 坦
平成7年	4月1日	～	平成10年	3月31日	米 山 靖 堅
平成10年	4月1日	～	平成13年	3月31日	杉 山 公 一
平成13年	4月1日	～	平成17年	3月31日	山 田 通 之
平成17年	4月1日	～	平成21年	3月31日	田 代 政 行
平成21年	4月1日	～	平成25年	3月31日	横 山 正 敏
平成25年	4月1日	～	平成29年	3月31日	小 野 弘 幸
平成29年	4月1日	～	現	在	山 橋 弘 幸